

コミュニケーション学科

2020年度ゼミナールガイド


関東学院大学人間共生学部

2020年3月

ゼミナール担当者（コミュニケーション学科）

1. 新井 信一（あらい のぶかず） P.1
2. 石井 充（いしい みつる） P.2
3. 奥田 博子（おくだ ひろこ） P.3
4. 折田 明子（おりた あきこ） P.4
5. 川村 覚文（かわむら さとふみ） P.5
6. 黒崎 真由美（くろさき まゆみ） P.6
7. 佐野 予理子（さの よりこ） P.7
8. 施 桂 栄（し けいえい） P.8
9. 松下 倫子（まつした みちこ） P.9
10. 道幸 俊也（みちゆき としや） P.10
11. J.K.モーザー（J.K.モーザー） P.11

1	<p><b>【担当者氏名】</b> 新井 信一 あらいのぶかず</p> <p><b>【研究室】</b> E2-406                                       <b>【 e-mail 】</b> arai@kanto-gakuin. ac. jp</p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野 企業・財務分析</li> <li>・担当科目 ビジネス・マネジメント、財務管理論、企業分析ほか</li> </ul>
3	<p><b>【ゼミナールⅠ】</b> 学外の企業や団体との課題解決活動を通して、社会人との接し方、メールのマナー、学修および研究全般にわたる能力を養います。特にPC操作能力の向上を重視します。</p> <p><b>【ゼミナールⅡ】</b> Ⅰに引き続き、実践力を養います。</p> <p><b>【ゼミナールⅢ】</b> 就職活動と並行して、論文の作成方法を学びます。</p> <p><b>【ゼミナールⅣ】</b> ゼミナールの集大成として、ゼミ論を作成します。</p> <p><b>【卒業研究】</b> ビジネス全般の領域からテーマを設定し、卒業論文として成果物をまとめます。可能な限り、学外との連携を意識して進めます。</p>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</b></p> <p>ゼミのテーマ：「課題解決を通じたビジネス研究」</p> <p>ゼミの運営方法：新井ゼミは学外の企業やNPO、自治体等とのプロジェクトを進めています。運営にあたっては、原則3名を1チームとしたプロジェクトごとの<b>チーム制</b>を採用しています。</p> <p>2020年度のプロジェクト先です（敬称略）。詳細はお尋ね下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">■横浜銀行（2016年度～）</li> <li style="width: 50%;">■金沢区通所介護事業者連絡会（2016年度～）</li> <li style="width: 50%;">■熊本県菊池市域学連携（2017年度～）</li> <li style="width: 50%;">■横浜南部市場共栄会（2016年度～）</li> <li style="width: 50%;">■金沢区役所区政推進課（2016年度～）</li> <li style="width: 50%;">■金沢区役所地域振興課（2018年度～）</li> </ul>
5	<p><b>【その他】（ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など）</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）ゼミを希望する学生は事前面談を受けてください。</li> <li>（2）担当者の科目を受講してください。</li> <li>（3）ゼミでは広報活動のため、Twitter（@KGU_nobunobu）を運用しています。</li> <li>（4）ゼミナールは出席が重要です。ゼミ運営についてゼミ生それぞれが役割を果たし、他のゼミ生と共に協調性と自主性を持って積極的に学ぶ姿勢が求められます。</li> <li>（5）学外活動の際に、服装や化粧などのマナーに従っていただく場合があります。</li> <li>（6）研修合宿、BBQ、新年会、忘年会等の課外活動もゼミ活動です。</li> <li>（7）ゼミナールは授業科目の1つですが、卒業後もメンバーの関係は継続されます。卒業後も、末永く集まれるゼミになって欲しいと願っています。</li> </ol>

1	<p><b>【担当者氏名】</b> 石井充  <b>【研究室】</b> E2-417  <b>【 e-mail 】</b> ishii@kanto-gakuin.ac.jp</p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野 社会分析</li> <li>・担当科目 メディアの歴史・リスクコミュニケーション</li> </ul>
3	<p>動画や CG を作成することを中心とし、横浜市と連携した、以下のような活動を行っています。</p> <p>詳細は、右の QR コードで指定されるサイト、  <a href="http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~ishii/">http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~ishii/</a>      を見てください。</p> <div style="text-align: right; margin-right: 50px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金沢区と連携した地域文化調査        金沢区の歴史的発展や文化・魅力を調査し、CG や動画で表現します。        文献調査や、実際に各地に行ってみての現地調査をもとにし、動画や CG を作成します。        その企画や成果を、地域の方々の前で発表します。</li> <li>・人間と自然の共生について考える        自然とは強大な力を持っており、人間との共生は、言葉でいうほど簡単なものではありません。都会的な生活を送ると忘れがちである自然と人間との共生の意義を学ぶため、伊豆諸島などの都会的利便さのない土地に行き、自然と向き合っている人々の状況を学びます。        学んだ成果は、Web サイトや動画の作成といった手段で発信します。</li> </ul>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</b></p> <p>日常的なコミュニケーションを通じて、個々の関心や特徴を把握し、各人の長所を生かした活動を行います。</p>
5	<p><b>【その他】</b> (ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など)</p> <p>各自の活動が中心となるので、積極的に参加する姿勢が重要です。</p>

1	<p><b>【担当者氏名】</b> 奥田 博子 (おくだ ひろこ)</p> <p><b>【研究室】</b> E2-411</p> <p><b>【 e-mail 】</b> okuda@kanto-gakuin.ac.jp</p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野 コミュニケーション学、言語理論</li> <li>・担当科目 英語コミュニケーション・スキルズ、コミュニケーション入門、映画で学ぶアメリカ文化、パブリック・スピーキング、異文化間コミュニケーション、メディア報道分析等</li> <li>・趣味 読書、旅行、美術・芸術鑑賞</li> </ul>
3	<p><b>【ゼミナールⅠ】</b> 新聞、雑誌、歌詞といった言語テキストおよび広告や映画といった映像テキストを題材にして、言語・非言語コミュニケーションについての基礎的知識を深めていきます。</p> <p><b>【ゼミナールⅡ】</b> コミュニケーション理論に関する基本的な文献に読みながら、グループで議論・討論を行ないながらコミュニケーションに関する理解を深めていきます。</p> <p><b>【ゼミナールⅢ】</b> 国内外のメディア報道に見られるコミュニケーションをめぐる「問題」について議論・討論を行ないます。</p> <p><b>【ゼミナールⅣ】</b> 各自ないし各グループの関心に沿ってワークショップ形式で事例研究の報告、発表および質疑応答を行ないます。</p> <p><b>【卒業研究】</b> 事例研究の報告、発表および質疑応答を行ない、プレゼンテーションの方法やレポート・論文の書き方について復習していきます。</p>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</b></p> <p>各自の関心に沿ってグループに分かれて言語・映像テキストを読み解く力、そして自分の意見を展開する力を身につけていきます。情報化社会といわれる現代において他人と異なる意見をもつ、あるいは、反対意見を言われるのをできるだけ避けようとする傾向がなぜ生じるのか、疑問・質問に対して何かしら回答・解答を欲するのはなぜかということを考えていきます。そのなかで、答えのない問いについて考えてゆくことの大切さ、解のない問いにきちんと向き合っていく姿勢を身につけていけるように指導します。</p>
5	<p><b>【その他】</b> (ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「映画で学ぶアメリカ文化」「異文化間コミュニケーション」といった科目の履修が望ましいです。</li> <li>・研究報告を兼ねた合宿を行なうにあたっては、学生主体で時期・場所などを含めて企画・運営してもらいます。</li> </ul>

1	<p><b>【担当者氏名】</b> 折田 明子 (おりた あきこ)</p> <p><b>【研究室】</b> E2-402</p> <p><b>【 e-mail 】</b> <a href="mailto:oritako@kanto-gakuin.ac.jp">oritako@kanto-gakuin.ac.jp</a></p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野：情報社会学・経営情報学 インターネット利用とプライバシー、死後のデータとプライバシー、リテラシー教育</li> <li>・担当科目：ネット・コミュニケーション、ソーシャル・メディア、インターネットとジャーナリズム、インターネットと情報発信、情報と政策</li> <li>・趣味：旅行（飛行機のルートを組むのが好き）、作曲、読書</li> </ul>
3	<p><b>【ゼミナールⅠ】 インターネットというメディアについて</b> インターネットというメディアについての基礎知識を身につける。また、書籍を読みレジュメにまとめること、および資料やデータを正しく読み取る力を身につける。</p> <p><b>【ゼミナールⅡ】 インターネットと人の行動Ⅰ：調査設計～実施</b> インターネット上のサービスはどのように使われているのか？グループに分かれてテーマを設定し、アンケート調査やサービス分析を行い、明らかにする。</p> <p><b>【ゼミナールⅢ】 インターネットと人の行動Ⅱ：調査分析・まとめ</b> ゼミナールⅡで行った調査結果を分析し、解釈する。必要に応じて参考文献の輪読も行う。調査結果は、学会や研究会での発表も検討する。</p> <p><b>【ゼミナールⅣ】</b> これまでの調査分析結果や書籍の輪読を元に、インターネットというメディアはどう活用すべきか、討議し、取りまとめる。</p> <p><b>【卒業研究】</b> インターネットと人の行動、社会との関わりに関する領域において、各人でテーマを設定し、ゼミナールの活動と関連させつつ取りまとめる。フィールドワーク、サービス分析、アンケート調査等いずれかの形で実証分析を行うこと。</p>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査設計、アンケート実施、分析など、自分で頭を使い、自分の手を動かして何かを明らかにしていきます。ゼミの時間以外にもグループや個人で作業が発生します。</li> <li>・書籍を皆で分担して読み、レジュメを作って発表する「輪読」を行います。書籍を読み、取りまとめる作業を個々で行い、ゼミの時間は発表と討議に使います。</li> <li>・ZOOMによるオンラインでの討議や報告をゼミ活動に含めます。皆さんと一緒にやり方を考えましょう。</li> </ul>
5	<p><b>【その他】 (ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ネット・コミュニケーション」「ソーシャル・メディア」「社会情報論」の少なくとも1科目を履修していることが望ましい。また、Excelの基本的な操作ができることよい。</li> <li>・ゼミナールⅠとⅡで合同の活動を行うため、時間割を確認の上履修を組み立ててください。</li> </ul>

1	<p><b>【担当者氏名】</b> 川村 覚文 (かわむら さとふみ)</p> <p><b>【研究室】</b> E2-407</p> <p><b>【 e-mail 】</b> sk@kanto-gakuin.ac.jp</p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>研究分野</b> 比較政治哲学、文化理論、メディア文化研究</li> <li>・<b>研究領域</b> 異なった出自、国籍、文化的背景、価値観などをもつ人々が、どのようにしたら共生できるのかということが、研究テーマです。そのため、共生のための共通の土台として、アニメ(『ラブライブ!』や『魔法少女まどかマギカ』など)を中心にした、メディア文化の可能性も考察しています。日本と海外(オーストラリア・イギリス・シンガポールなど)の事例を参照しながら、デジタルメディア時代におけるアイデンティティとグローバルな共生について、考えています。</li> <li>・<b>趣味</b> 旅行、テニス、アニメ視聴</li> </ul>
3	<p><b>【ゼミナールⅠ】</b></p> <p>日本と海外(オーストラリア、イギリスなど)を参照しながら、多文化的な共生とアイデンティティのあり方について考えます。そのために必要な、映画やドキュメンタリー番組なども視聴します。</p> <p><b>【ゼミナールⅡ】</b></p> <p>文化とアイデンティティの関係についての知識を深め、それがどういった状況で問題になるのか、具体的な例(沖縄の事例やメディア文化など)をもとに考察します。</p> <p><b>【ゼミナールⅢ】</b></p> <p>日本と海外の文化的対象(アニメや漫画、映画、雑誌、テレビ、ファッション、ネットカルチャーなど)に触れながら、それらを批判的に分析するために必要な、論理的思考を身につけます。</p> <p><b>【ゼミナールⅣ】</b></p> <p>具体的な文化現象やメディア文化を対象に、各自の分析テーマと研究計画を決め、ディスカッションおよび発表をしつつ、最終成果の作成を目標にします。</p> <p><b>【卒業研究】</b></p> <p>国内外の様々な文献の読解を通して、より高度な理論を理解し、その知見を卒業研究に反映できるようにします。</p>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</b></p> <p>グローバル化が進むことで、ますます多文化・多様化する世界を、多面的・批判的に考える能力を養うことがこのゼミの目標です。そういった能力を養うことを通じて、デジタルメディア・ネットワークに支えられた今日の世界を理解し生き抜いていくのに必要な、アイデンティティと知識・教養・思考力を獲得することが可能となっていきます。</p>
5	<p><b>【その他】(ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など)</b></p> <p>国際的なフィールドで活躍しよう、またはメディアを通じてグローバル化したこの世界をより深く理解しよう、という学生を歓迎します。</p>

1	<p>【担当者氏名】 黒崎 真由美 (くろさき まゆみ)</p> <p>【研究室】 E2-408</p> <p>【 e-mail 】 mayumi@kanto-gakuin.ac.jp</p>
2	<p>【担当者の紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野 アメリカ研究 (アメリカ文学) 現在は、アメリカをはじめ、オーストラリア、日本等の“ネイチャーライティング”という自然と人間のかかわりを省察した一人称形式のノンフィクション文学を研究テーマとしています。</li> <li>・担当科目 人間共生論入門、教養ゼミナール、コミュニケーション入門、英語コミュニケーション・スキルズ (レベル1 &amp; 2)、英語 I &amp; II、英語圏の文学、英語圏の生活と文化、留学準備クラス、コミュニケーション・プロジェクト5 &amp; 6、ゼミナール I・II・III・IV、卒業研究</li> <li>・趣味 ビリハリ、八ヶ岳、タスマニア</li> </ul>
3	<p>《アメリカ研究》</p> <p>多くの日本人にとって、もっとも身近な外国はアメリカかもしれません。ゼミナール I・II・III・IVを通して、この国の深い理解を目指します。グローバル人材として生きていくための知識を学びます。</p> <p>【ゼミナール I】</p> <p>アメリカについて、歴史をベースに総論的に学びます。その上で、さまざまなテーマでミニ・プレゼンテーションを行います。</p> <p>【ゼミナール II】</p> <p>現代アメリカ論を輪読します。各自の研究を加え、プレゼンテーションを行います。</p> <p>【ゼミナール III】</p> <p>ゼミナール II を継続して、現代アメリカ論を輪読します。それと並行して、各自がアメリカに関する興味のあるテーマを設定し、論文作成の準備作業を行います。</p> <p>【ゼミナール IV】</p> <p>アメリカに関する興味のあるテーマで論文 (和文・英文いずれも可) を執筆します。執筆にあたって、個別指導を行います。学年末には、ゼミ内/学科内の研究発表会で発表します。</p> <p>【卒業研究】</p> <p>アメリカに関する興味のあるテーマで論文 (和文・英文いずれも可) を作成します。前半では論文作成の準備作業を行い、後半で執筆します。執筆にあたっては、個別指導が主となります。学年末には、授業内/学科内の研究発表会で発表します。</p>
4	<p>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、映画を主としたメディアを用います。</li> <li>・授業以外のゼミ活動 (懇親会、研修旅行等) は、学生主体で企画・運営します。</li> <li>・就職活動を支援します。</li> <li>・希望により、英語および TOEIC 受験対策の指導も行います。</li> </ul>
5	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何事にも積極的に取り組む学生を歓迎します。</li> <li>・英語を学ぶゼミナールではありませんが、米映画・英文資料を扱うことになるので、英語が嫌いな人には向きません。</li> <li>・「英語圏の生活と文化」の受講が望ましいです。</li> </ul>



1	<p><b>【担当者氏名】</b> 佐野 予理子 (さの よりこ)  <b>2020年度「ゼミナールⅠ」担当者:</b> 磯崎 三喜年 (いそざき みきとし)  <b>【研究室】</b> E2-409  <b>【 e-mail 】</b> sano@kanto-gakuin.ac.jp</p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野：社会心理学、産業心理学</li> <li>・担当科目：心理学の理解、ビジネス心理基礎、集団行動の心理学、産業心理学、対人コミュニケーション 等</li> </ul>
3	<p><b>【ゼミナールⅠ】</b>  社会心理学や産業心理学の文献の読解を通じて、社会心理学や産業心理学が問題としてきた様々な課題や知見について知り、理解する。</p> <p><b>【ゼミナールⅡ】</b>  心理学研究を行うための基礎力を身につける。心理学の研究について知り、身近な疑問について簡単な調査を行う。</p> <p><b>【ゼミナールⅢ】</b>  社会心理学や産業心理学の文献講読を通じて様々な研究を知り、これまで明らかにされてきた知見を理解した上で、そこから課題発見を行い、具体的な研究計画を立案する。</p> <p><b>【ゼミナールⅣ】</b>  ゼミナールⅢで立案した研究計画を実施する。得られた結果を分析し、考察を行う。</p> <p><b>【卒業研究】</b>  まず、学術論文の読み方やまとめ方について学び、テーマ設定を行う。次に、テーマに関連した先行研究を調べ、まとめる。研究計画を作成し、実施する。最後に、得られた結果を分析し、考察を行い、卒業論文を執筆する。</p>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問は大歓迎ですが、自分で調べ考えることが前提となります（受動的態度ではなく能動的態度で参加すること）。</li> <li>・授業外での活動についてはゼミ生が主体的に運営することになります。</li> <li>・他のゼミや他大学のゼミとの交流を行うときには原則として参加すること。</li> </ul>
5	<p><b>【その他】(ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など)</b></p> <p>ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは連続性があり、2年かけて自分の関心に基づいたテーマの研究を行います。つまり、2年かけて実際に自分で研究を計画・実施し、その結果について考察しまとめます。まずは心理学の研究がどのようなものか知りながら、好奇心レベルで関心・興味のあるテーマを見つけましょう。そして、そのテーマを大切にしながら、徐々に心理学的に検討できるレベルまで深めていきましょう。</p> <p>ゼミ生は互いのテーマを尊重し、興味・関心を持ち、積極的に意見交換・議論をしてください。多様な視点に触れることはよりよい研究に繋がります。</p> <p>※「心理学の理解」「対人コミュニケーション」を履修することが望ましい。</p>

1	<p><b>【担当者氏名】</b> 施 桂栄 (し けいえい)</p> <p><b>【研究室】</b> E2-412</p> <p><b>【 e-mail 】</b> shiipara@kanto-gakuin.ac.jp</p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>【研究分野】</b> 社会心理学、組織心理学</li> <li>・<b>【担当科目】</b> 社会心理学、人間関係の心理学、人間関係づくり演習、組織行動の心理学、コミュニケーション・プロジェクト8</li> <li>・<b>【趣味】</b> 読書、映画鑑賞、旅行</li> </ul>
3	<p><b>【ゼミナールⅠ】</b></p> <p>本ゼミでは、人間関係や異文化理解（特に日中両国間）という両分野において、新聞・雑誌の関連記事や研究論文、自分の経験などから得た社会的事象を取り上げ、それについて心理学の視点から分析し相互にディスカッションを行う。</p> <p><b>【ゼミナールⅡ】</b></p> <p>社会・集団・個人的諸問題を社会心理学の視点から解明し考察する。また、中国語圏（中国本土または台湾）における文化調査・交流活動を実施し、異文化コミュニケーションのスキルを実践的に学ぶ。</p> <p><b>【ゼミナールⅢ】</b></p> <p>ゼミⅠ、Ⅱで行った一連の研究プロセスで得られた知識や経験を活かして、人間関係や異文化理解において具体的な研究活動を行う。</p> <p><b>【ゼミナールⅣ】</b></p> <p>ゼミⅢでの研究結果について人間の心理と社会的行動という視点から考察し報告（プレゼンテーション）する。</p> <p><b>【卒業研究】</b></p> <p>人間の心理や社会的行動にかかわる諸研究（例えば、印象形成、集団行動、人間関係、コミュニケーション、リーダーシップ、組織行動、異文化心理など）を行い、その結果を卒業論文にまとめる。</p>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</b></p> <p>学生が自主的にゼミ活動を運営し、心理学の知識を活かした社会・地域連携活動（沖縄や三浦半島など）を通して実践的に学ぶことが本ゼミの特色である。また、中国語圏の大学生との交流も積極的に行う。研究テーマや課題については、学生自らが各自の問題意識に基づいて設定していき、テーマに応じて個別に指導する。</p>
5	<p><b>【その他】（ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など）</b></p> <p>心理学諸科目、中国語圏の生活と文化、コミュニケーション・プロジェクト8</p>

1	<p><b>【担当者氏名】</b> 松下 倫子 (まつした みちこ)</p> <p><b>【研究室】</b> E2-416</p> <p><b>【 e-mail 】</b> mmatsu@kanto-gakuin.ac.jp</p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>研究分野</b>：現在関心を持って研究しているテーマ ①社会全体の情報化をどのような指標で測定すれば良いのか。特に定性的評価の方法について ②発展途上国に対する経済開発の初期ステップとしてのICT産業導入の効果について ③発展途上国の企業との協働事業における諸問題について</li> <li>・<b>担当科目</b>：情報技術論、経営情報システム論、社会情報論、ビジネス統計シミュレーション、数値データ処理、コンピュータ・リテラシー、他</li> <li>・<b>趣味</b>：サッカー観戦、古典芸能鑑賞（特に、歌舞伎・落語）</li> </ul>
3	<p><b>【ゼミナールⅠ】</b> ①基本的なパソコン活用のスキルを身に付ける。 ②専門分野の入門書をきちんと読み、要約できる。 ③自分の考えをレポートにまとめる。 ④他者に対してプレゼンテーションする。 ⑤集団での役割分担や、ゼミナールの運営に慣れる。</p> <p><b>【ゼミナールⅡ】</b> 『情報社会の現状を理解するための基礎力を身につける。』</p> <p>まとまった文献を読み、理解し、内容を要約し、それをわかりやすく発表することができるようになる。</p> <p><b>【ゼミナールⅢ】</b> 『情報社会の現状を知る。』</p> <p>グループで協力しながら、調査し、発表することができる。他者の発表を聞き、理解し、質問することができる。</p> <p><b>【ゼミナールⅣ】</b> 『情報社会の課題を考える。』</p> <p>課題を発見し、それについて調査し、まとまった論文を完成させ、プレゼンテーションを行う。</p> <p><b>【卒業研究】</b></p> <p>経営情報システムに関する課題の中からテーマを選択し、学術論文を読み、考察する。関連する学会の大会や研究会にも参加する。必ず論文を提出すること。</p>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの授業は学生相互の討議を基本とし、教員が適宜コメントする形式を取る。</li> <li>・ゼミで主催する授業以外の活動（合宿など）は学生が計画・運営すること。</li> <li>・他のゼミ（他学部、他大学を含む）との交流（合同合宿など）も積極的に行う。</li> </ul>
5	<p><b>【その他】</b>（ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など）</p> <p>『社会情報論』を履修していることが望ましい。</p> <p>ゼミナールは学生主体の学びの場です。各自が学びたいテーマを持つと同時に、ゼミ全体での研究内容に積極的に関わらしましょう。他者の意見を尊重すると同時に、常に自主的に学修し、自分なりの意見を持つことが大切です。また、ゼミは協働作業の場でもあります。授業時間だけでなく、ゼミとして行う全ての活動に協力し、積極的に参加しましょう。</p>

1	<p>【担当者氏名】 道幸 俊也 (みちゆき としや)</p> <p>【研究室】 E2-418</p> <p>【 e-mail 】 tmichi72@kanto-gakuin.ac.jp</p>
2	<p>【担当者の紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野 心理学的類型論による動機分析、および、キャリアレジリエンスの研究</li> <li>・担当科目 キャリア・デザインⅠ、キャリア・デザインⅡ、キャリア・デザインⅢ、コミュニケーション・プロジェクト14、プロジェクト・マネジメントⅡ</li> <li>・趣味 音楽鑑賞 (80's,90's,SmoothJazz,R&amp;B など)、愛犬と散歩、写真</li> </ul>
3	<p>【ゼミナールⅠ】 問題発見、課題解決など社会で必要とされる基礎知識について文献や専門書等を通して主体的に学修する。また、その学んだ内容に基づいて、課題に取り組む。</p> <p>【ゼミナールⅡ】 自分たちでテーマを設定し、ゼミナールⅠで身につけた知識を実践で使えるよう学外での活動に取り組む。取り組んだ結果について、学術論文など先行研究で根拠を示して発表し、「知の定着化」を目指す。</p> <p>【ゼミナールⅢ】 ゼミナールⅡでの活動を更に深めるために身につけた知見を学外活動で実践し、成果物 (メディア等)に残す。その成果物について考えや意見をまとめ、卒業論文のテーマを見出す。</p> <p>【ゼミナールⅣ】 これまでの活動をもとにゼミナールⅢで見出したテーマについて、その先行研究を概観しながら探求し、論文にとりまとめる。</p> <p>【卒業研究】 卒業論文を執筆します。執筆に際して、個別で対応します。</p>
4	<p>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</p> <p>学生主体でゼミ活動 (合宿・懇親会を含む) を自分たちで企画・運営していただき、合宿などでは上の学年が下の学年の学生の面倒をみるということを基本的なスタイルとします。個別の指導については、皆さんの MBTI のタイプ別に、自己理解の促進を体感できる方法で個々に対応を変えて実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本ゼミナールでは「発散から収束へ」と「自分の物差しの目盛りに固執しない」を常に意識して取り組んでください。他者の意見や考えを尊重してください。</li> <li>・他のゼミだけでなく、他大学や企業との交流や活動を計画しています。最低限の礼節を!</li> <li>・必要事項や共有すべき情報について、報・連・相は必ず実施していただきます。コミュニケーション、目的の共通理解、貢献意欲の3つを大切にさせていただきます。</li> <li>・活動してきたことをその証しとして成果物にしていただきます。ぜひ自分たちの活動の足跡を残してください。</li> </ul>
5	<p>【その他】 (ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など)</p> <p>希望する学生のかたは、事前に研究室へ来てください。本ゼミナールは「どうせ無理」という殻を壊したいような「やる気」のある人でないと続かないかもしれません。その意欲が少しでもある人には、就職活動も含めて最後まで諦めずに支援します。学生生活は良かったと言えるよう、基本的に楽しく笑顔で、しかし、時に社会人になることの厳しさを体験して、後悔しない時間を一緒に紡いでいきましょう。諦めない人、諦めたくない人、歓迎します。</p>

1	<p><b>【担当者氏名】</b> Jason Moser  <b>【研究室】</b> E2-410  <b>【 e-mail 】</b> moser@kantogakuin.ac.jp</p>
2	<p><b>【担当者の紹介】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究分野 I have lived in Japan for over 20 years. Most of this time has been in Osaka. I am from Canada, but did my PhD in England. I specialize in language education.</li> <li>・担当科目 English Expression I and II, Oral Expressions II and IV, seminars</li> <li>・趣味 Reading, playing soccer, my children, watching ice hockey and sampling whisky.</li> </ul>
3	<p><b>【ゼミナールⅠ】</b> The theme of seminar focuses on learning TOEIC Techniques, learning practical Business English, watching important movies, studying infographs and developing intercultural skills.</p> <p><b>【ゼミナールⅡ】</b> The theme of seminar focuses on learning TOEIC Techniques, learning practical Business English, watching important movies, studying infographs and developing intercultural skills.</p> <p><b>【ゼミナールⅢ】</b> The theme of seminar focuses on learning TOEIC Techniques, learning practical Business English, watching important movies, studying infographs and developing intercultural skills.</p> <p><b>【ゼミナールⅣ】</b> The theme of seminar focuses on learning TOEIC Techniques, learning practical Business English, watching important movies, studying infographs and developing intercultural skills.</p> <p><b>【卒業研究】</b> The theme of seminar focuses on learning TOEIC Techniques, learning practical Business English, watching important movies, studying infographs and developing intercultural skills.</p>
4	<p><b>【ゼミの運営と特色・ゼミでの指導方法】</b></p> <p>These seminars follow a ‘learning by doing’ approach to English.</p>
5	<p><b>【その他】</b> (ゼミナール受講にあたって 履修が望ましい科目など)</p> <p>Any practical English class.</p>